No. 9　2008.1.20

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
事務局 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302
TEL/FAX 042-389-5534
宮田太郎（歴史古街道団 団長）
ホームページ http://homepage3.nifty.com/kokaido/

華厳院坂/写真右手奥に幅10mの道路設置予定

年頭のご挨拶

宮田太郎（団長）

海の古道から陸の古道へ、あなたのルーツから発せられた真心のメッセージは、今を生きるあなたに絶えず送り届けられている。

昨年も、毎月の行事に大勢の会員皆様にご参加頂き、誠にありがとう御座いました。

本年も健康づくりのために、また日常の楽しみとして、お気軽にご友人やご家族をお誘いの上、各地の歴史ロマンの探索や旅にご参加下さい。

「歴史は知識ではなく感性で楽しむものなのだ！」

一貫してこれまで主軸に置いてきた理念は、実地に立って空気を吸い、歩いて始めて実感できるものです。日本各地と、長い歴史を経て関わってきた周辺各国を廻る旅の面白さ、そして身近な多摩古道の美しさや奥深さなど、恵まれた環境に取り囲まれていることに気がついたときに幸福感と心地よい興奮が湧いてきます。大小様々な島によって形成されている島国日本の、海浜へ、古い湊の跡や歴史ある集落へ、丘の上の見晴らしや清らかなる心の拠り所の聖地へと出かけましょう。何かを見つけたときの感動は、私たち一人一人の根源的ルーツからの真心のメッセージを受け止めた瞬間です。本当の元気は身体ばかりではなく内なる世界の幸福感から湧いてくるもの。今年は行動の年。大いに古道の世界で遊びましょう。

鎌倉街道は保存された！！

町田市野津田・華厳院坂の古道遺跡

計画概要＝道路は車道が 5.5m、歩道 4.5m、計 10m 幅で、坂の下の芝溝街道（津久井街道）から河井家までの下部は現道を拡幅。その先の上は東側の内藤家裏山に緩やかにカーブさせながら掘割り、華厳院の墓地に寄せながら頂上に達する。工事は08年4月以降の予定。

中世・鎌倉時代に鎌倉幕府によって建設された可能性のある鎌倉街道。それらは次々に姿を消し、主要な幹線道路の痕跡でさえも近い将来、完全に消滅してしまう危機にいま直面している。その中でも広範囲に渡って歴史古道群が集中して遺存している、全国でも極めて稀な地域は、東京都町田市小野路・野津田・小山田地区である。

その野津田地区で「鎌倉街道上ノ道本路」や「古代東海道（防人の道）」が重なって残されていると推定される、通称「華厳院坂の古道跡」が市の計画する道路建設で消滅しそうになる事態が起きた。<団報第５号（2006.5.15 発行）参照>

“古街道の集まる奇跡の丘”とまで我々が呼ぶこの丘に残された古道遺構は、華厳院という寺の西側にある坂道にあり、鎌倉の切通しに似た迫力ある雰囲気が今に残る。

古道推定部分は、車一台がやっと通れる狭い舗装道路全体と道路の東側（墓地側）斜面部分、そして西側に接する深い掘割状の窪みや、立ち上がる壁の部分まで広がる大規模なものである。この坂は上にある数軒の家やお寺の墓地参拝の車が通行し、歩く人との接触が懸念されていた。そこで持ち上がったのが新道の設置並びに拡幅計画だ。

この貴重な古街道を可能な限り保存し、何とか新設の道路と共存させる設計に変更できないか…と、当団では昨年以来、宮田団長を中心に、町田市の担当部局に申し入れを行い、また地元地権者と何回かの調整を続けてきた。

№9

その結果、昨年秋には幅10mの車道（一部歩道併設）を新設・拡幅する計画の一部コース変更案に到達。長さ250mにわたる古道遺構の全てを残すことは出来ないが、直接、切通し部分を破壊することのないような大幅のコース変更をすることで、70％の古道部分はそのまま残り、将来は古道の中を歩ける遊歩道として実現する可能性が出てきた。

この古道が今日まで開発を免れてきたこと、また今回の計画変更は、地元地権者の理解とご好意、多大な努力があってこそ達成できたことは言うまでもない。

15年ほど前から、この古道跡の前後数箇所で、古街道団の前身にも当たる多摩歴史街道遺跡研究会（会長＝峰岸純夫教授、事務局長＝宮田太郎。会は3年間の期間限定で運営。）や町田市教育委員会、東京都教育委員会などでそれぞれ発掘を行ない複数の硬化層（踏み跡）を持つ道路状遺構などを確認している。しかし発掘調査すべき地点は今回の道路計画地内にまだ多く残され、一部は調査されたものの芝溝街道に近い地神石塔付近の地下の道路遺構調査などは未実施で今後の課題となっている。

当団では2008年春頃をめどに、この古道跡の前後区間に当たる小野路地区の鎌倉街道跡と山崎地区の七国山の鎌倉街道跡を繋ぎ、野津田上の原に発掘後、覆土したままになっている鎌倉古道遺構を観覧できるような保存処置を行うことを含む「多摩丘陵町田地区・歴史古道保全総合計画」の提案を行っていく予定である。

早春の多摩周辺

2008年2月から6月

宮田太郎団長と行くロマン紀行

ガイドをする宮田団長

みやたたろう団長と行く

古街道・探索ウォーキング

みやたたろう講演学習会＆ショートウォーク

●2月3日(日)

『多摩丘陵の古城Ⅰ
百草城と三沢城（日野市）を探る』

■講演学習会/10：00～12：00
＊会場：関戸公民館第1学習室（聖蹟桜ヶ丘駅前）
＊参加費：300円
■現地ｼｮｰﾄｳｫｰｸ/13：30～15：30
＊参加費（会員400円　一般700円）
【コース】京王線百草園駅改札口13：30集合～日野市三沢～百草園一帯
【内容】多摩丘陵は武蔵野と相模野の間に横たわり、その間の連絡上どうしてもこの高台に狼煙（のろし）や烽火（とぶひ）を置く必要があります。多摩丘陵には、まだたくさんの未発見の城や砦があると考えられ、百草城や小野路関屋城を発見した体験をもとに古城の特徴や存在理由、道との関係を探っていきます。

みやたたろう古街道・探索ウォーキング

●3月1日（土）

『杉並大宮神社と善福寺川の
和田（わだ）・海田（あまた）の里』

【コース】京王井の頭線「浜田山」駅改札口前10：00集合～浜田山の鎌倉街道～神田川の鎌倉橋～塚山公園～下高井戸八幡神社～西永福駅（自由昼食・ファミリーレストラン有り）～大宮八幡神社～弥生時代遺跡～直線参道と善福寺川・鞍掛けの松～和田堀公園～松ノ木の館跡と鎌倉道～区立博物館(解散 15:45 頃)～路線バスで京王線、中央線、丸の内線などの最寄り駅へ
【内容】東京の杉並にあって長大なる参道を持つ大宮神社は果たして海人族系の神社なのだろうか。古代朝鮮語に由来するとも言われる和田地名や海田（あまた）郷名に隠された東京湾河川中流域の秘史に迫ります。

古街道・探索ウォーキングの共通参加事項

◆参加費＝団員700円（ご夫婦は2人で1,000円）
　一般は1人1,000円。
◆持ち物＝雨具持参、飲み物持参。昼食は飲食店利用の場合と各自弁当の場合がありますので詳細は各案内参照。
◆雨天の場合は基本的には中止（ただし小雨の場合実施することがあります。朝7時半までに実施か否かを本部事務局（TEL042-389-5534）までお問い合わせ下さい。（それ以降は宮田団長の携帯電話 090-7002-3431 まで）

みやたたろう古街道・探索ウォーキング

●3月20日（木）

『浅草寺の古代風景・駒形堂と
鎌田正清の石塔の謎』

【コース】都営浅草線「浅草駅」地上出た駒形堂公園10：00集合～浅草寺参道～雷門～仲見世～伝法院地蔵尊～弁天山～昼食（自由）～浅草寺～二尊仏～浅草神社～被官稲荷～影向堂～淡島大明神～六区ブロードウェイ～浅草駅(解散 15:45 頃)
【内容】古代の浅草の風景はどんなものだったか。浅草寺の始めは朝鮮半島の高句麗ゆかりの駒形神を安置した庵で今の駒形橋西詰信号のところにあった？！…古い絵から見えた風景を検証し、また飛鳥に住む土師氏や檜前氏が登場する浅草神社創建伝説の意味、境内に現存する鎌田正清の石塔と渋谷氏の影を探ります。　＊昼食は仲見世周辺で自由に。

みやたたろう古街道・探索ウォーキング

●4月6日（日）

『青梅・御岳神社と飛鳥から来た
古代卜占（ぼくせん）神の謎』

【コース】JR 青梅線「御嶽駅」改札口前9：50集合～ケーブル瀧本駅ゆき路線バス～ケーブルで御岳山駅～御岳荘の大中臣由来石碑～山城の跡と遺跡～大ケヤキと蔵王権現灯籠～昼食（おみやげ店など飲食店で自由）～大麻止乃豆乃天神・石塔～山頂祭場の大麻止社と大口真神社殿～ケーブルで下山し御嶽駅(解散 16:00 頃)
【内容】東京府中の大国魂神社も青梅御岳神社も麻生区栗平の御岳神社も、実は飛鳥の天香具山から来た卜占氏と古代都市設計技術者集団の遺蹟だった？！…御岳神社や大国魂神社の名は明治時代になってからのもの。稲城市大丸に現存する大麻止乃豆乃天神社と同名・同祭神である飛鳥と青梅と府中と稲城と川崎市麻生区の深いつながりの謎に迫ります。

みやたたろう古街道・探索ウォーキング＆ガイドリーダー養成講座

●5月3日（土）

『小山田馬場窪と鎌倉武士団・小山田氏の道』

【コース・時間】
●ガイドリーダー養成講座＝9：00小山田緑地公園駐車場集合～津保沢～馬場窪の土塁・溜井～小山田緑地公園～大泉寺～大久保台の的場跡～唐木田駅 12:30 着。
＊参加申し込み必要。参加費 1,000 円。
●団員・一般の方の通常参加＝小田急線「唐木田駅」改札口前13：30集合～福祉センター～多摩よこやまの道ガスタンク脇小山田氏の案内板～奥州古道踏み跡断面～大泉寺～小山田緑地公園～日大三高バス停(解散 17:00 頃予定)～多摩センター駅、町田バスセンター、淵野辺方面へ
【内容】東京都町田市小山田の都立小山田緑地公園は中世小山田氏の牧場があったところ。鎌倉幕府の流鏑馬（やぶさめ）の師匠であった兄弟が草競馬をしたと伝わり、室町時代には太田

を歴史探索

の史跡ウォーキング

道灌も陣馬を集めたと推定されます。20年以上前に発見した馬込（馬籠）状の土塁跡や奥州古道を探ります。将来はここで日本馬を放牧する夢を語りましょう。
◎午前中はガイドリーダーの養成講座を実施致しますので希望者は事務局までお申し込み下さい。

みやたたろう古街道・探索ウォーキング

●6月19日（木）

『厚木・八菅山の修験の里とヤマトタケル伝説を探る』
【集合】◎JR 横浜線・淵野辺駅から出発組＝淵野辺駅改札口前9：00集合～淵野辺駅南口バス停から「淵 59 系統半原行き」乗車～愛川町中津局前下車（約 30 分間）
◎小田急小田原線「本厚木駅」厚木バスセンター出発組＝本厚木駅「中央口改札前」9：15集合～歩きで５分の厚木バスセンター厚 59 系統 10 番乗り場「三増行き・愛川役場方面行き」に乗り、愛川町中津局前下車（約 30 分間）
【合流集合地】＝愛川町中津局前バス停に10：15頃集合
【コース】中津局前～山十邸～中津川と八菅神社（昼食・弁当持参）～八菅山と経塚～山伏の里～龍福寺～中津バス停（解散 17:00 頃）～淵野辺駅または本厚木駅
【内容】関東三大修験道の本拠地、厚木愛川町の八菅山(はすげさん）はヤマトタケル伝説に彩られ蛇形山とも呼ばれた修験山伏たちの聖地。今でも静かな里には数十件の山伏や御師、先達の家が点在しています。厳かな八菅神社の森から山頂の経塚まで実際に上り眺望を楽しみます。20分程であがれる山道は、初夏の香りに包まれていることでしょう。

ガイドリーダーと行く

史跡・探索ウォーキング

ガイド・ウォークの共通参加事項
・参加費＝団員/500円　一般/700円
・申込不要　・弁当・雨具持参

◆2月16日(土)

『古代甲州道を歩く（多摩境～堀内編）』
ガイド：斎地カズエ(団員)
【コース】京王相模原線多摩境駅改札前10：00集合～町田市小山の田端遺跡（環状積石遺構）～長池～南大沢～別所（蓮生寺）～（昼食）～堀之内（一次解散）～日影堀の内（八幡神社）～小池谷戸～井戸の上～八王子市大塚（解散 15:00 頃）
【内容】古街道団が提唱する古代甲州道を追って大栗川沿線南側の丘の上の古道を歩きます。当団では過去に一度歩きましたが、今回、ガイドウォークとしてたったひとつの峠越えで多摩丘陵を横断できる南大沢の峠を体験し、諏訪湖へ続く壮大なロマンある古道を探りましょう。
★連絡先：斎地カズエ（☎ 090-6184-9060）

国分寺・仁王門

ガイドリーダーと行く史跡探索

◆4月12日(土)

『古多摩川の流跡・春萌のハケに古えを訪ねる』
ガイド：佐藤文俊(団員)
【コース】JR・京王線／分倍河原駅南口・新田義貞像前9：30集合～旧鎌倉街道～御猟場道～谷保天満宮～城山・古民家（昼食）～国立郷土館～南養寺～ママ下～古墳～矢川緑地～JR西国立駅（解散 15:30 頃・行程:約 6km）
【内容】多摩川が造ったという「年代ものの置き土産」、これが崖線(ハケ)である。崖線の直下からは武蔵野段丘や立川段丘上に降った雨水が地中深く染み込み濾過されて、至る所で湧き出ている。湧水は小川となって崖線下の田畑を潤し、やがて多摩川に注ぐ。都市化が進む中、メダカが泳ぎ四季折々の花が咲くなど、里山の原風景が今もここにある。古代人の足跡も多く、バラエティに富んだ散歩道を楽しく歩きましょう。
★連絡先:佐藤文俊(☎042-373-3193)

◆5月17日(土)

『鎌倉街道と東山道・武蔵路(国分寺編)』
ガイド：庄司健次郎（団員）
【コース】ＪＲ中央線・武蔵野線/「西国分寺駅」南口広場に9：30集合～西国分寺駅～鎌倉街道跡～黒鐘公園～国分寺（尼寺と僧寺）～お鷹の道～真姿の池～都立国分寺公園（昼食）～東山道・武蔵路～一葉の松～熊野神社～鎌倉街道跡～姿見の池～ＪＲ国分寺駅（解散 15:30 頃）
【内容】武蔵国分寺があった場所は今でも礎石が残り、ハケの湧水から霧が立ち込める日はなんとも幽玄な様相に変わります。今も残る鎌倉街道や古代道路の痕跡を現地に探ります、恋路太夫ゆかりの傾城の松や真姿の池は昔の物語を思い起こさせてくれるでしょう。
★連絡先：庄司健次郎（☎070-6555-6362）

◆ミニ学習会

中世の城跡、その遺構と特徴

講師：金子　功　（団員・日本城郭史学会会員）
3月15日（土）14：00～16：00
会場/関戸公民館第3学習室（聖蹟桜ヶ丘駅前）
【内容】多摩周辺の城跡はその大半が中世城館に分類できます。そこで、中世城館とはどんなものなのかを城の変遷の面から簡単に復習し、各地に遺る代表的な遺構を撮り溜めた写真を使って紹介します。また、キャスリング（城歩き）の参考に多摩周辺の城跡を書籍等の情報から抜粋して紹介します。どなたでもお気軽にご参加下さい。
連絡先：☎ 090-7239-3137(金子)

多摩の万葉時代防人パレード

防人と妻の別れを歌い･舞う（パルテノン多摩大階段）

部領使が率いる防人一行（パルテノン大通り）

防人の妻と子、多摩の万葉人のパレード（パルテノン大通り）

2007年10月6日（土）
15:00～17:00
会場：パルテノン多摩前(多摩センター駅前)

悠久の時を越えて　多摩の丘に

「今こそ、思い出そう!多摩の昔のこと、心豊かだった暮らしの風景を！そして家族の絆（きずな）を･･･」爽やかな秋の夕暮れ、パルテノン多摩の階段前大広場を埋め尽くした大勢の観衆･出演者･スタッフ全員が高らかに歌い上げ、混じり合い、ひとつになって、感動のひとときを過ごしました。

企画募集に当選

この催しは、多摩市の文化施設パルテノン多摩の開館20周年記念事業として（財）多摩市文化財団が主催した市民参加事業「歴史がつくる未来のわがまち多摩」の幕開けとして開催した「多摩の万葉時代･防人（さきもり）パレード」。記念事業のテーマ公募には、19企画の応募があり、2回の審査を経て選ばれた4団体の企画のうちのひとつとして、歴史古街道団を中心に市内の歴史･自然･環境保護団体など8団体で構成した「さきもりパレード実行委員会（代表＝宮田太郎･歴史古街道団団長）」の企画が採用されました。内容は、かつて国を守るため防人として遠く筑紫（北九州）や対馬に派遣された東国の男たちが歩いたであろう多摩の横山（多摩丘陵）での故郷や家族との別れの情景を「別れの峠越え」として再現するイベント。

激論・苦難の立ち上げ

第1回実行委員会を7月1日に開催。この席上、実行委員長に宮田団長が選出され運営事務局･演出部･制作部･会場部を組織して、それぞれ役割分担を行って運営することを決定。正直なところ、この時点では、このイベントの構想は宮田団長の頭の中のみにしかなく、残された期間は3カ月。脚本の作成･衣装づくりなどなど、文字どおりゼロからの出発でした。衣装デザインを決めるのに1週間、また1週間が費やされ、メンバーにあせりの色が見え始めました。激論を交わし悪戦苦闘する中、演出に和田弥一郎さん、歌はミネハハさん（コマーシャルの女王）、ダンス及びダンス指導は板倉リサさん（世界的ダンスアーティスト）に友情出演していただくことが決まるやスタッフ一同、俄かに活気づいていきました。スタッフ手作りの衣装が出来てから出演者も決まりましたが、出演者の年令層は小学生から高齢者まで体型･サイズはまちまちで、折角縫ったものをまたほどいては手直し。ダンスの演出も白熱してくる中、出演者の練習の様子を繰り返し見ているうちに衣装担当は、ここはこの方がいい、こっちはこうしようと、夜遅くまで手直しをして仕上げていきました。また、会場係は、折角の演技の時に階段上に通行人が動くのは雰囲気を壊すから、申し訳ないが通行を規制しよう…、メインストリートをパレードする時の安全を確保しよう…など、実行委員会の全員が自分の出来ることは何かを真剣に考え、こうして、みんなの心は一つになりました。

さあ！パレード本番

2007年10月6日（土）快晴。午後3時、多摩センター駅前に防人とその家族･護衛の兵士･大伴家持･防人部領使･万葉人、それぞれ万葉衣装を纏い総勢30名が勢揃いすると、突然出現した異様な一行をたちまち大勢の人が取り巻く。宮田団長の挨拶と主旨説明の後、多摩の少年役（宮田団長の少年時代）の和田隆太郎君を先頭にパレードが始まりました。遥かな“防人見返りの峠”に見立てたパルテノン多摩大階段へ向けて･･･。

実行委員が配布する説明チラシはパレードが始まるや、我もわれもと瞬く間に 1,000 部用意したチラシがなくなり、もうないのか？と詰め寄られたほどの盛況さ。やがて、ミネハハさんが歌う多摩丘陵の精霊の声に誘われるように、防人一行は特設ステージへ･･･。

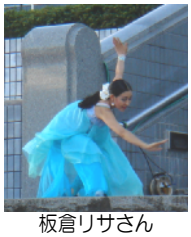
感動！そして涙

ミネハハさん

ミネハハさんが心をこめて歌った「水鏡」「紡みゆく糸」は多摩センターの青空に響き渡り、多摩丘陵の精霊に扮して踊った板倉リサさんは、本当に精霊のような美しさで観客を魅了しました。

また、学生防人会、市役所職員の方、市民参加の出演者も板倉リサさんと共に踊り、国を守るために東国から遥か九州に旅立った防人の家族の別れの悲しみを見事に演じ上げました。

すごい、本当にすごい･･･。確かにあったのです。原始の時代から古代、そして現在へ･･･。多くの変遷があったけれど、多摩丘陵には人々の暮らしは脈々と続いていたのです。だからこそ、今こそ、心豊かな昔の風景を思い出し、家族の絆を大切にして次の世代へと引き継いでいかなければならない。そのことを確認しあってフィナーレとなりました。しんどかった、しんどかったけど、このイベントに参加して本当によかった…。一人一人に感動が思い出として残りました。


板倉リサさん

（記：田中次雄）

愛と感動

さきもりまつり(第3回) 2007

2007年11月23日(祝)
8:30～15:00
府中大国魂神社～多摩よこやまの道ウォーキング

蘇る古代装束で歴史を再現！

今から1300年前の昔、飛鳥から奈良時代にかけて、ここ東国から北九州は壱岐、対馬や筑紫に倭国防衛のため派遣されていった防人(さきもり)の足跡を追って多摩丘陵の道を歩き、いにしえに想いを馳せる、「さきもりまつり 2007」が開催された。

※別刷りカラー写真集をご覧下さい

団長の解説を聞く参加者と出演者(よこやまの道・もみじ広場)

●まつりの概要

ウォーキングスタート地点は 3 コース。聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、最も長い 10.5km コースの大国魂神社大鳥居前(防人達が軍団に編成された地、武蔵国府跡)。当日は好天に恵まれ、山を彩る紅葉が盛りの多摩よこやまの道に、参加者 200 人を越える人々が集い古代に思いを馳せて楽しんだ。

これまで地元中心であったPR活動も、今回はより広域に展開されたことで、多摩地区のみならず都内や近隣他県からも幅広く参加者を呼び込み、当団結成時目標の「郷土史の活性化と啓蒙」という目標にも一歩近づけた。

加えて、班分けしたグループ毎の時間差スタートや、ガイドリーダーの歴史ポイント解説は好評。メイン会場「丘の上防人広場」での防人やその家族、そして大伴家持や女官等の登場には、参加者一同から歓喜と驚きの声が。さらに、防人見返りの峠までの古代人との同行ウォーキングで一段と盛り上がり、「防人見返りの峠」に笛の音が流れるなかでの見送る家族との別れのシーンは涙を誘った。

●多摩交流センター助成事業に

今年の「第 3 回さきもりまつり」は東京多摩地区の自治体で構成運営している(財)東京市町村自治調査会・多摩交流センターの助成事業に認定されています。

この助成金は多摩地域を先導するまちづくり運動や、地域市民相互の交流活動推進をはかる「広域的市民ネットワーク活動等の事業助成」で、歴史古街道団の過去 2 回の防人祭りの実績と 2007 年度事業計画を高く評価していただいたものです。

また今年はパルテノン多摩 20 周年記念事業に際し、市民企画事業「多摩の万葉時代防人パレード」をいち早く提案し、企画・準備・演出・出演するなど、公的機関の企画への参画も実現した年となりました。

●多摩全域のイベントに（参加状況）

今年の防人祭り当日 11 月 23 日は秋晴れにも恵まれ参加者は目標を越えて 229 人もありました。性別では男性 115 人、女性 114 人と同数。

年齢別にみると 60 歳代が 116 人(55%)でトップ、次いで 70 歳代 50 人(23%)、50 歳代 22 人(10%)と中・高年齢者が中心でした。団員と一般の比率では団員 51 人(22%)に対し一般参加者は 178 人(78%)となり、地域広報に力を入れた結果が出ました。

参加者の居住地別では多摩地域の住民が 193 人(95%)で多摩地区全体の広域的イベントに成長しているのがわかります。

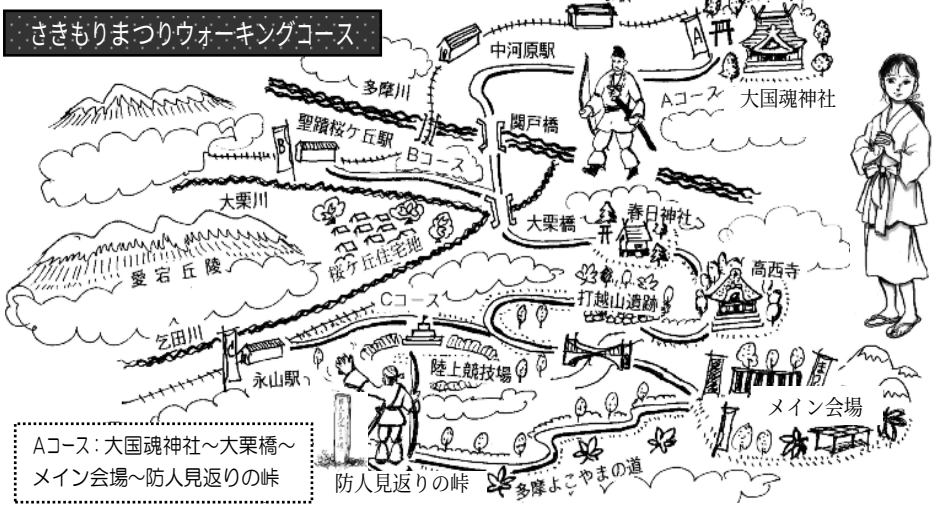
市町村別では地元多摩市 35 人(17%)。次いで隣接の八王子市 30 人(15%)、府中市 28 人(14%)、町田市 14 人(7%)、日野市 12 人(6%)等で隣接市からの参加が 102 人(51%)、その他の市 56 人(27%)、特別区・他県 10 人(5%)、住所不明 26 人(11%)でした。

写真展（於：関戸公民館ギャラリー）

●写真展を初めて開催

“さきもりまつり2007”の一環として開催した写真コンテストを2007年 12 月 2 日(日)～6 日(木)まで東京都多摩市立関戸公民館ギャラリーに於いて開催しました。沢山の応募を頂き、いずれの作品も時代を超越した当日の感動をそのまま掴み取ったものであり、優劣つけ難い秀作ばかりでしたが、審査は会場を訪れて写真展を鑑賞された方々の投票により行われ、次の作品が選出されました。受賞者には、賞品としてバスカードが贈られました。

1等　都筑仁哉氏 「旅立ち」
2等　和智 章 氏 「奏でる」、田中次雄氏 「紅葉のトンネル」
3等　菊田正俊氏 「よこやまの道を行く防人」、田山次男氏 「全員集合」、山内恵子氏 「さきもりのあしおと」



団員達の

ガイド・ウォーキングを振り返って

初めてのガイドです。よろしく！

ガイドリーダー養成を目的に一昨年10月から始めたミニ・ウォーキングは、ほぼ1回/月のペースで継続的に開催してきました。ガイドの方々に案内を終えた感想を書いて戴きました。

・・・・・・・・・・・・・・

平成19年5月13日(日)

境川源流域の鎌倉みちと小松城・川尻八幡宮

ガイド：田中　次雄

夏も近づく八十八夜を幾日か過ぎた5月13日(日)10時、JR相原駅に45名の団員及び一般参加者が集まった。目的は新緑がもっとも美しい季節に、多摩丘陵の最西端を南北に貫く鎌倉街道山の道と甲州街道裏道を探索し、かつ城山町の象徴である龍籠山(たつごやま)を草戸山から踏破することであった。龍籠山から西方やや南に一直線に並列する小松城跡～川尻八幡宮、そして直線参道約1キロ先の、一の鳥居まで約23,000歩のウオーキングである。

さて、鎌倉街道山の道は大戸から高尾に抜け秩父・甲斐への道であった。現在は町田街道と呼ばれ、交通量も激しく昔の面影はない。しかし、大戸観音から熊野社～浅間社～権現谷へ抜ける裏道は、新編武蔵風土記稿にあるように『山道ニシテ狭キニ至ッテワズカニ獨歩スベキホドノ小径ナリ…』という雰囲気がよく残っている。

やや曇り空であるけれど穏やかな天候に恵まれて、新緑の中を歩くと少し汗ばんだ肌にマイナスイオンが心地良い。今回は権現谷へと下らず、大戸緑地を大きくUターンして雨乞いの碑～若宮八幡宮～大地沢青少年センターに戻って昼食とした。

午後は草戸山～龍籠山への登りが若干の急坂であるため2班に分け、山登りの苦手の方たちには雨降～城山町民の森野球場を経て龍籠山に向かっていただき、城山湖で合流することにした。

多くのガイドブックが境川の源流は町田市大地沢としている。間違いではないが、主源流は龍籠山麓から流れる本沢(宝沢)でなければならない。龍籠山に生まれた大河の一滴は竜のごとく蛇行しつつ江の島の竜の口へ流れ出るのだ。日蓮聖人法難で知られたあの「龍口寺」もそこにはある。大河・境川の初めの一滴は現在は城山湖(日本初の揚水式発電所)となっているが昔は本沢であったのだ。

今回の探索会の特別メニューは川尻八幡宮の七不思議の紹介であった。最終ポイントの一の鳥居から今歩いて来た1,000mの参道を振り返ると川尻八幡宮の森のうしろに沈む夕日の逆光を浴びてくっきりと龍籠山の姿を確認することができた。また2月19日の雨水(古代の正月)には参道反対方向に日の出を拝することができる。限りないロマンを頭に描きつつ午後4時45分無事解散することができた。参加者の皆さんのご協力に心から感謝いたします。今回のミニウオークは古街道団の友好団体である城山地域史研究会の皆さんに支援して頂き、メダカのガイドを助けていただいた。ここに改めて感謝いたします。　(参加者49名)

平成19年6月3日(日)

昔の図師を探索し鎌倉街道・奥州古道を散策する

ガイド：小菅　勲

先ず熊野神社と石塔の「不」のマークについて説明。「図師」交差点で旧旅館や明治初年の小野郷学図師教場について話す。鎌田家と鎌田坂は古道が集合する場所だ。下図師村旧名主宅前から鶴見川を渡り、再び芝溝街道に出る。乱闘場・旧豪商・向明学校・忠生村役場等から旧江戸街道が残る所を案内する。近くの大橋坂現道は4代目。旧豪農「佐藤家」については古文書が1000点も残る家だ。ここで芝溝街道を渡る。ここからが地元に伝わる「鎌倉街道」だ。鶴見川に沿って上流へ500m程続くだろうか。拙宅前からヤブこぎをして土器探しを少しやる。ここは縄文時代5500年前の住居跡が発掘された。

公園内で昼食。休憩後、先発の組と市営室内プールで合流する。日大三高野球場西側は下小山田町の「龍沢」だが、地名由来は柳沢吉保の家系の者がこの辺り一帯を治めていたので、柳沢(りゅうたく) → 龍沢に転化したらしい。結道地区の「井上統生(つぐお)」家に行く。この家も旧名主宅で先々代は大規模な馬方、先代は町田市文化財委員で漢文の市内第一人者だった。全員座敷に上がりこんで湯茶の接待を受け同氏の話を聞く。次に近くの奥州古道から大山街道へ行く。信号「並木」も昭和初期にカネ形に曲がった道を太く真っ直ぐな道にした。この後は出発地の熊野神社まで戻る。今回出発・解散地点を同じにして車での参加者の利便を図ったつもりです。

土器探し（町田・図師）

土器探しはヤブの中をイヤだなと思った人も？井上家での話には皆さん感心しきり。今回、図師地内ひと巡

全部を廻るのだ。言い忘れると大変なことで全部廻ってきたかとよく確かめられた。来るのはみんなお婆さん達で中には杖をついてくる高齢者もあったが、宿となる家ではお芋や煮〆を煮たり精進揚げを作ったりで大忙しであった。灯がともる夕方になると「お晩です」とお婆さん達が次々と来る。この時祭壇には灯明が赤々と灯され、吃然と不動明王が黒いお姿で立つ像が祭られている。この前で不動さまの経文が誦されるのだが、お坊さんのお経と違い何か親しみやすいものを子供心に感じたものである。途中でお茶となり、煮〆が出されてお婆さん達の話がはずむ。その時のお婆さん達の生き生きとした表情。こうして次の朝はお不動さまはまた櫃に納めて次の家に背負われていく。私も櫃を背負ったことがあるが、ずっしりと重くなんとなくお不動さまの威圧を感じたものだ。これはもともと「かみだいじん」の全盛期に講の為につくられて志納されたものと聞いていたが、先年この講も解散してお不動さまも高幡山の本寺に納められてしまった。

団扇(うちわ)置き先達の婆(ばば)木魚打つ

【著者紹介】井上正吉。大正8年生れ。多摩市関戸在住。現在も元気に田や畑を耕し、短歌・俳句を詠み、謡曲を習う。主な著書は『吉富の村人たち』『多摩の語りべ』『多摩の民話』『野翁小咄』など。

活動記録

りしたが私の説明で理解してもらったか？反省しきりです。（参加者44名）

平成19年6月24日(日)

鎌倉の古刹杉本寺から逗子岩殿寺への巡礼古道

ガイド：藤田一彦

鎌倉・杉本寺

杉本寺から岩殿寺までの巡礼古道と、釈迦堂切通し洞門上のやぐら群・伝北条時政邸跡をたどり、北条氏が六浦海岸方面へ勢力を伸ばしていった事を現場で考える企画を立て、鎌倉駅から逗子駅まで歩き通しました。

神奈川県立博物館展示の鎌倉のジオラマには釈迦堂谷に時政邸・義時邸と表示され、ある本にはそれを北条名越邸と記していますがその根拠はどこにあるのか寡聞にして知らず、皆さんにお聞きしてようと思っておりましたが、少し雨が落ちてきてゆっくりお話しする時間が持てず残念でした。

北条実時が文庫をかまえた金沢の地は、今でも真言宗の寺院数が他宗派寺院を凌駕しており、その理由などを鎌倉幕府成立と、北条勢力伸長から考えてみたいとも思っておりました。巡礼古道も岩殿寺裏山へ続く本来のルートは住宅造成地のため消滅し、大切岸上を歩きまんだら堂跡から名越の切通しを通るなどハードなウォーキングになってしまったと反省しています。

（参加者44名）

平成19年7月8日(日)

葛飾柴又帝釈天・矢切の渡し・戦国の下総国府台合戦痕跡を歩く

ガイド：田口俊弥

当日は心配された天気も回復し、ハイキング日和となりました。その代わりに朝から故障による都営地下鉄浅草線不通ということで、参加者が少ないのではと懸念されましたが、40人近くも来ていただき大いに盛り上げて下さいました。

ガイドする側としては、あれもこれもと話したいことは山ほどあったのですが、結局半分程度しかお伝えできませんでした。しかし、後で参加者の方からお聞きしたら途中で私が長話をしたためちょっとダレたとのご指摘を頂きました。

今回のテーマは南北朝から戦国時代の関東の歴史についてだったので、私も含めて皆さんあまり馴染みが無い歴史事項が多いし、説明するにはちょっと時間がかかるのでどうしようかと当初から悩んでいましたが、そういう時はあまり深く突っ込まない方が良いのかなと、そして質問されたら答えるようにして本当の骨組みだけを絞って説明するだけで十分なのかなと今となっては反省しています。

また途中、矢切地区の地元ボランティアガイドの方が飛び入りで説明して下さり、後日、お礼方々、歴古団のパンフレットをお送りしましたら、先方はただのウォーキング愛好会だと思っていたらしく、至極恐縮されていて、あらためて歴古団は凄い団体なのだなということを実感しました。

今回参加してくださった方々及びサポートしていただいた団員の方々に本当に感謝申しあげます。

（参加者39名）

みやたたろう古街道探索ツアーシリーズ

※問い合わせ・申し込み＝郵船トラベル㈱

担当・諸井 TEL0425－26－5735

朝日カルチャーセンター東京・提携シリーズ

■4月3日（木）～4日（金）　1泊2日

京都嵯峨野の歴史古道を歩く

～秦氏と賀茂氏の遺跡と伝説～

【内容】京都の古代史を渡来系移民秦氏と賀茂氏の遺跡と伝説の視点から現地に探ります。秦河勝の古墳とも言われる巨大な蛇塚や三つ足鳥居に囲まれた海人族・安曇氏の祖神・磯良(いそら)石、広隆寺の菩薩像は圧巻。渡月橋と壱岐から来た月読神社の深い関わりや町並みの美しい奥嵯峨野の魅力を堪能します。

【コース】東京駅～下賀茂神社・上賀茂神社～鞍馬の里～大将軍八神社～泊～蚕の社（木嶋坐御魂神社）の磯良石～広隆寺・弥勒菩薩～大酒神社～秦河勝の蛇塚古墳～松尾大社と月読神社～野々宮神社～奥嵯峨野散策～帰路。

NHK学園・提携ツアー

■4月14日（月）～17日（木）　3泊4日

海の道・奄美の古代遺跡と島唄の旅(仮題)

【内容】奄美大島は、鹿児島と沖縄の中間に位置する島で、東南アジアから沖縄を経て九州へと北上する海の街道の途中にあります。これまで奈良の正倉院や奥州平泉中尊寺の螺鈿（らでん）細工の原料は中国のものと考えられていましたが、夜光貝が奄美の遺跡から数多く発見された近年、独自の交易を行っていた可能性も指摘されています。年々消えつつあるノロ、ユタといった女性の祭祀者と風習、神の通り道、浜で聴く唄者の島唄を現地に探り、また体験していきます。加計呂麻島では平氏と源氏伝説地や海の道のルーツを探っていきましょう。

【コース】**1日目**：奄美大島北部＝羽田空港～笠利の遺跡群とアマンデー（奄美創建伝説）～トフル墓～宇宿貝塚～西郷南州謫居跡～名瀬泊。**2日目**：大島つむぎ村～大島南部＝マングローブ林カヌー探検～宇検・倉木崎海底遺跡展示館～瀬戸内古仁屋泊（夜は浜で島唄鑑賞）。**3日目**：加計呂麻島～諸屯（しょどん）ディゴ並木～大屯神社と平家伝説地～安脚場～実久海岸と鎮西為朝伝説地～古仁屋～笠利泊。**4日目**：秋名の平瀬マンカイ場～龍郷町・平行盛神社～ばしゃやま村～帰路。

多摩の昔ばなし ①

火口箱（ほくちばこ） 御不動経（おふどうきょう）の宿

井上正吉著『野翁小咄』より

山嶽の神々へのおそれは、素朴な村人の信仰となって根強く村人の間にあった。深い教理などは判らなくても、人々はひたすら神にすがったり、み仏への経文を唱えたものである。

火口（ほくち）箱というのは山嶽信仰の行事の一つで、長方形の木の箱で灯明が灯せるようになっていた。お灯明のすすけた黒い箱で家毎に廻ってくると、その家ではその夜お供えをして次の朝また隣の家に廻すのである。随分長い間続いたものだろうが、戦争が終わって山嶽信仰も下火となって講が解散すると、この火口箱も廻って来なくなってしまった。

御不動経というのはこの山神信仰とは別で、真言密教の不動明王の信仰で、これは村をいくつかに分けた講中というものを単位として行われていた。これは一ヶ月毎に行われ、お宿もその度に変わっていった。御不動経のお宿となると前もって講中の家々に告げて置く。私はよくこの使い番をやらされた。子供のことだから只「今夜うちでお不動経をするから来てください」と言って歩く訳で、十二軒

2008年早春～初夏の歴史ロマン古道予定表（一部計画中を含む）

注）問合せ欄；(団)＝歴史古街道団、【協力団体】(里)＝鎌倉街道さとびとの会、(海)＝海陸古道研究会。
探索・学習テーマ欄；歩＝宮田太郎ウォーキング、学＝講演会／学習会、養＝ガイド養成講座、ガイド＝ガイドリーダウォーク

月日	集合場所･時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
1月24日(木)	京王線／府中駅南口改札口 10:00	【歩】品川道 Ⅰ、神官のお水取り道と国府政庁の歴史ロマン	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
1月27日(日)	JR中央線／高尾駅 北口改札前09:30	【ガイド】梶原景時ゆかりの八幡神社と後北条氏の遺構を探る	団員:500円 一般:700円	当日	(団)山崎 TEL0422-42-0650
2月３日(日)	関戸公民館８F第1学習室 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分 10:00	【学】多摩丘陵の古城Ⅰ、百草城と三沢城（日野市）を探る、学習会の部	団員:300円 一般:300円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
	京王線／百草園駅改札口前 13:30	【歩】多摩丘陵の古城Ⅰ、百草城と三沢城（日野市）を探る、ウォーキングの部	団員:400円 一般:700円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
2月７日(木)	京王線／飛田給駅改札前 10:00	【歩】品川道 Ⅱ、飛田給の古墳群と東郷平八郎ゆかりの寺	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
2月16日(土)	京王相模原線／多摩境駅改札前 10:00	【ガイド】古代甲州道を歩く、多摩境～堀之内編	団員:500円 一般:700円	当日	(団)齊地 TEL090-6184-9060
2月21日(木)	新宿住友ビル・朝日カルチャーセンター東京 10:00	【学】京都・嵯峨野の歴史古道を歩く、朝日カルチャーセンター東京・提携	団員:2,940円 一般:3,570円	〆切 2月19日	(朝日)志水 TEL03-3344-1945
3月１日(土)	京王井の頭線／浜田山駅改札口前 10:00	【歩】杉並大宮神社と善福寺川の和田（わだ）・海田（あまた）の里	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
3月６日(木)	小田急線／狛江駅改札前 10:00	【歩】品川道 Ⅲ、狛江和泉の遊水池と古墳群	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
3月15日(土)	関戸公民館８F第3学習室 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分 14:00	【学】中世の城跡、その遺構と特徴 講師：金子功（団員）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)金子 TEL090-7239-3137
3月20日(木)	都営浅草線／浅草駅 地上に出た駒形堂公園に 10:00	【歩】浅草寺の古代風景・駒形堂と鎌田正清の石塔の謎	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
4月３～４日 (木～金)	①JR東京駅銀の鈴広場 07:45 ②JR京都駅三条口 10:40	【旅行】京都嵯峨野の歴史古道を歩く～秦氏と賀茂氏の遺跡と伝説～ 朝日カルチャーセンター東京・提携ツアー	①団員:75,000 ②団員:54,000	〆切 3月19日	郵船トラベル㈱ 諸井 TEL0425-26-5735
4月６日(日)	JR青梅線／御嶽駅改札口前 09:45	【歩】青梅・御岳神社と飛鳥から来た古代ト占（ぼくせん）神の謎	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
4月８日(火)	小田急線／狛江駅改札前 10:00	【歩】品川道 Ⅳ、世田谷・大蔵の戦い伝説と喜多見の氷川神社	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
4月12日(土)	JR・京王線／分倍河原駅南口 新田義貞像前 09:30	【ガイド】古多摩川の流跡、春萌のハケに古えを訪ねる	団員:500円 一般:700円	当日	(団)佐藤 TEL042-373-3193
4月14～17日 (月～木)	羽田空港８時３０分JAL	【旅行】海の道・奄美の古代遺跡と島唄の旅、NHK学園提携ツアー	直接お問い合わせ下さい	〆切 3月31日	郵船トラベル㈱ 諸井 TEL0425-26-5735
5月３日(土)	小山田緑地公園駐車場 09:00	【養】小山田馬場窪と鎌倉武士団・小山田氏の道	1,000円	〆切 ５月２日	(団)宮田 TEL042-389-5534
	小田急線／唐木田駅改札口前 13:30	【歩】小山田馬場窪と鎌倉武士団・小山田氏の道	500円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
5月８日(木)	東急田園都市線／二子玉川駅 改札前 10:00	【歩】品川道 Ⅴ、玉川大師の地下仏教回廊と鎌倉道	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
5月17日(土)	JR中央線・武蔵野線／西国分寺駅 南口広場 09:30	【ガイド】鎌倉街道と東山道・武蔵路（国分寺編）	団員:500円 一般:700円	当日	(団)庄司 TEL042-502-8248
5月25日(日)	関戸公民館8F大会議室(VITA8F) (聖蹟桜ヶ丘駅西口～徒歩3分) 総会 14:00～、講演 15:20～	【総会】歴史古街道団２００８年度総会 総会後、講演『古代武蔵の渡来ゾーン』 講師 荒竹清光氏（「丹生の会」代表）	―	―	(団)宮田 TEL042-389-5534
6月19日(木)	①JR横浜線／淵野辺駅 09:00 ②小田急線／本厚木駅 中央口改札前 09:15	【歩】厚木・八菅山の修験の里とヤマトタケル伝説を探る	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534

2008年度定期総会 (一部:総会 二部:講演会)

■5月25日(日) 14:00～16:30
■会場:多摩市立関戸公民館･大会議室
(VITA:8F／聖蹟桜ヶ丘駅西口から徒歩3分)
■講演:『古代武蔵の渡来ゾーン』、荒竹清光氏

2008年度、年会費納入を受付中です

2008年度登録更新受付が始まりました。同封の振込み用紙でお早めに更新の年会費(3,000円)を納入願います。
2008年度の新規団員募集も１月から始まっています。
☆歴史古街道団郵便振替口座番号 00140－7－445195
※入団等に関するお問い合せ ☎070-6555-6362(庄司)

編集後記 年明けのウォーキングは寒い中ではありましたが沢山の参加を頂き、団長の語りも一層弾み快調に進んでいます。新年度の会費納入の時期になりました。別掲の通り会費納入をよろしくお願い致します。今年も元気に歩きましょう！
編集責任：歴史古街道団広報部（河村・金子・遠藤）

【発行】歴史古街道団
事務局：〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-36-21 APT1･2･3-302
宮田太郎(歴史古街道団団長) TEL/FAX 042-389-5534
http://homepage3.nifty.com/kokaido/

“さきもりまつり２００７”写真集　府中大国魂神社～多摩よこやまの道（防人見返りの峠まで）　2007.11.23(祝)

Ａコース出発式（大国魂神社）

Ｂコース出発式
（聖蹟桜ヶ丘駅前）

府中市の善明寺前にて（府中本町付近）

紅葉の多摩丘陵に、さきもりたちがやってきた！

防人部領使（さきもりべのことりづかい）を先頭に“夢の橋”を渡って登場！（メイン会場）

もうすぐ到着…！（聖ヶ丘付近）

宮田団長から主旨説明を聞く参加者（メイン会場）

探索会資料バックナンバーを探す（メイン会場）

多摩のむかし野菜は大人気！
（メイン会場）

出演者勢揃い（防人見返りの峠）

福引きに当たった！（メイン会場）

もうすぐ別れのとき…（よこやまの道）

別れを惜しむ妻と子

よこやまの道を行く防人たち

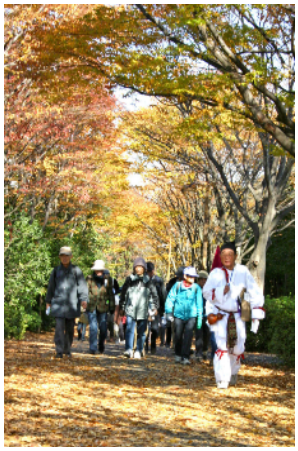
さきもりまつり２００７　写真コンテスト入選作品集

●実施日：2007 年 12 月 2 日（日）～6 日（木）　●会　場：多摩市立関戸公民館ギャラリー

☆多数のご応募有難うございました。

1 等　都筑　仁哉氏
「旅立ち」

2 等　和智　章氏
「奏でる」



2 等　田中　次雄氏
「紅葉のトンネル」

3 等　菊田　正俊氏
「よこやまの道を行く防人」

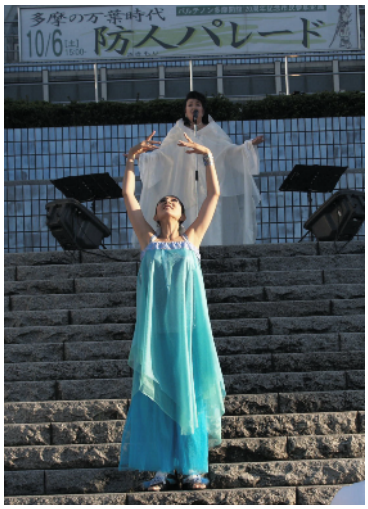
3 等　山内　恵子氏
「さきもりのあしおと」

3 等　田山　次男氏
「全員集合」

パルテノン多摩開館20周年記念事業　多摩の万葉時代防人パレード

●実施日：2007 年 10 月 6 日（土）

●会　場：多摩センター駅前～パルテノン多摩大階段まで

防人パレード（パルテノン大通り）

防人と妻の別れの舞い、愛の心を歌うミネハハさんと多摩の精霊となり舞う板倉リサさん（パルテノン多摩大階段）